

平成 26 年度 児童生徒の平和に関する図画・作文コンクール
図画の部〈講評〉

今回で7回目となる本コンクールへの図画の部の応募点数は、787点でした。

審査は、これまで同様、次のことを基準に進めました。

コンクールの主旨である 《戦争と平和について考えると共に、平和を尊ぶ心を育む機会とする》と、内容については、 《沖縄戦について直接体験者から聞いたり、映画を見たり、本などを読んで感じたことを自由に描く》、小学校低学年においては 《身近な生活のなかでの平和や共生、人権教育の視点による作品》などに合致した作品になっているか、などです。そして、それを表現するための形や色、画面構成が発達段階に応じた表現であるか、などです。

ちなみに、**形**とは、人物や植物などの描き方で、**色**とは、その形を生かすための色づかいのこと、**画面構成**とは、画用紙全体における**色**や**形**のバランスや組合せのことです。

それぞれの校種・学年ともコンクールの主旨などを良く理解し、発達段階に応じた素晴らしい作品が多く見られ、本村の子どもたちの表現力と感性の豊かさを感じることが出来ました。紙面の都合上、審査講評は、村長賞と教育長賞の5点にさせていただきます。

村長賞：大川^{せいあ}世愛（渡慶次小学校 1 年）「へいわっていいな」

人物の描き方は1年生にしてはとても良くできていますね。スピード感のある大らかな輪郭線は生命力を感じさせます。色づかいもいいですね。3名それぞれの服装の色のちがいやデザインの変化により、作品に対する深い思いやりが感じられます。画面いっぱい描いた人物、左上の楽しそうな野鳥と太陽、そして下がわの草花などによる画面構成も見事！

教育長賞：西田^{まあや}真彩（古堅小学校 1 年）「楽しいお弁当」

形や色、画面構成、すべてにおいて1年生らしい素直な絵に仕上がっています。顔と足の大きさを比較すると明らかにアンバランスですね、実物の人間とは違いますね。でも、どうしても低学年の子どもたちはこのような表現になってしまいます。《絵は理屈だけでなく感性で描くほうがいい》ということからそうなるんですね。赤、緑、青などの原色が生きています。

教育長賞：砂辺^{せりな}瀬里奈（古堅小学校 4 年）「友達がいて幸せだね！」

友達と一緒にピースのサインをしている様子を描いた作品ですね。青い空に太陽、幸せそうな日常の一コマですが、それがズーッと続くといいですね。そんな願いが感じられる作品です。人物を画面からはみ出るほど大きく描いた画面構成は、のびのびとした力強さも感じ取れますが、もう少し動きを出すためには左右対称にしなかった

方がよかったと思います。

教育長賞： 島袋 愛子（古堅小学校 5 年） 「みんなが笑顔で」

人物やイルカなどの描き方は発達段階にふさわしい表現だと思います。この作品は、全体的にやわらかい色調でまとめたところがいいと思います。それにより、画面全体から和やかで優しい感じが伝わってきます。さらに平和のシンボル・ハト、幸せの象徴・四つ葉のクローバー、人物の表情などからテーマの主旨が素直に伝わってくる作品になりました。

教育長賞： 杉本 智園^{ちおん}（古堅中学校 3 年） 「平和の空を」

画面中央の悲しそうで物憂げな表情の人物が独り、何かを感じ何か言いたそうですね。よくよく見ると、基地を連想させる破れた金網、そのあちらこちらに戦を想起させる血らしきもの、そしてなぜか白い線で描かれた銃らしきモノ、さらに悲鳴が聞こえてきそうな幾人かの手等々。「惨たらしい戦争はもうイヤダッ！・・・」そんな叫びが聞こえてきそうです。

淡彩、厚塗りなど、色づかいにもう少しメリハリをつけると完成度が高くなったと思います。

審査員：伊元隆一（読谷高校・美術教諭）、与久田健一（国立美術館・館長）